

令和5年度 教育活動等に対する学校評価書

令和6年3月5日

学校法人さくら学園 さくら幼稚園

学校法人さくら学園 さくら幼稚園 学校関係者評価委員

1. 園の教育目標

建学の精神である『こころとからだの健康づくり』を踏まえ、一人ひとりを大切にしながら豊かな環境をめざし、その中で育ててほしい子ども像を掲げました。

- *生き生きとして明るく、思いやりのある子ども
- *友だちと一緒に楽しくあそぶことのできる子ども
- *あそびや生活の中で、自分で考え、行動し、試し、工夫してやろうとする子ども

2. 今年度の重点目標

- *子ども達の、なぜ？どうして？を大切に、子どもと同じ目線に立って保育する。
- *未来に向かって育てている子どもの将来を見据えた『今』を大切に保育
- *その子の良さや可能性を引き出す保育
- *子ども達も保護者も安心して園生活を送ることができる幼稚園

3. 評価

項目の達成及び取り組み状況 (評価点 A 十分に成果あり B 成果あり C 少し成果あり D 成果がない)

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
	評価点	取り組み状況・反省と改善策	評価点	評価理由・意見
①あそびや行事等の様々な体験が、年齢やクラスの実態に合ったもので子ども達にとって楽しく充実したものになっていたか	A	<ul style="list-style-type: none">・子ども達が今何に興味や関心があるのか、どんなことを経験してほしいか常に教師間で話し合い、遊びや行事一つひとつにねらいを持ち活動の進め方や行事の行い方など計画していく事で、子どもたちにとって楽しい活動となり充実感に繋がったと思う。・制作では教材研究を重ね、年齢に見合ったわかりやすい言葉掛けや、イメージしやすい絵や写真、実物などの利用、廃材遊びからごっこ遊びへと発展した際の十分の時間の確保など心掛け、自発的に「やりたい」と思えるような導入や環境構成を行う事で、その時期のクラスの成長過程や実態に合わせた遊びを取り組むことができた。 <p>(次年度に向けて・改善策)</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもの姿やクラスの実態を把握し、興味を示しているものや、その時に合ったあそびや活動を検討し、時には同学年のクラスを比べ照らし合	A	<ul style="list-style-type: none">・家庭で伝統的な行事を行わなくなったので、幼稚園で体験させてもらえることがありがたい。・行事前に、歌や絵本などで子供たちの気持ちを高めてくれていることが、保護者にも伝わっている。・流行の歌や言葉も、子供同士のやり取りから汲み取り、保育の中に取り入れてくれているのがわかる。

		<p>わせ、教師間で話し合いながら連携を取り子どもたちの良さを伸ばしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年々社会環境も変化しているので、伝統的な行事やその時にしか体験できないものなど、大切にしていきたい部分を明確に、時には削り、今の時代に合わせて運営していくことも必要に思う。一つひとつの活動をより濃く、充実できるようにしていきたい。 		
<p>②子ども達の安全に気を配り安心して生活が送れるよう環境構成や言葉かけを行っていたか。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あそびが活発になると同時に怪我も増えるので「どうして危険なのか」「どうすればいいのか」「なぜ怪我をしたのか」など子ども達に問いかけ一緒に考える事で理解を深め、子ども自身でも気を付けられるように配慮した。 ・危険な場所がないか確認し、怪我をしそうな場面が起きないように声をかけたりした。活動や遊びが楽しめる十分なスペースを構成したり、教師が子どもの目線にたち、危険な行動や場所など把握し子どもや教師間で伝え合うよう努めた。 ・様々な病気の感染予防として手洗い・うがいの声かけ、子どもが触れる部分のこまめな消毒を行うよう心掛けた。子ども達にも予防の大切さが伝わり実践できていた。 ・花粉症などアレルギーがある子へ教師間で共通理解を持ち配慮した。食物アレルギーに関しては、給食の先生を含め、複数の職員で確認するようにしている。 <p>(次年度に向けて・改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が「大丈夫だろう」と思い込まず‘もしも’や‘万が一’をしっかり考え、安全面に配慮したあそびやすい環境構成を行っていく。 ・子どもの行動から目を離さず、何か起きた時は正しい対処が出来るようにする。また防止策として記録に残し(ヒヤリハット)、職員間で危険箇所等共通理解しておく。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・車が入るところなのは、分かっているが、鉄棒の横の柵が低いことに危険を感じる。人が簡単に外から入ってくる事が出来そうで、外からも中からも手を入れられそう。園庭に人がいない時ほど、心配。柵を高くするなど何か対策を考えられないか。 ・感染予防を徹底してくださっているおかげで、感染が少なかった。 ・子供の食の安全を知るために給食の試食をしたい。

<p>③子ども達に寄り添った援助や年齢に応じて育てほしい姿を伸ばすことができるか</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている時は寄り添って話を聞き、不安な子には励まし、頑張りやできた事を褒め自信を持てるような言葉を選ぶようにした。それぞれの子どもの成長段階や個人差に合わせた対応の仕方や言葉掛けを心掛け、1人ひとりの課題に担任だけでなく副担任や園全体で配慮を行い、その子にとっての育ちがあるようにと取り組んできた。 ・年齢に応じた育ちの姿を思いながらも、個人差があることを考慮することで、ひとりひとりの成長がクラス全体の成長へと繋がったと思う。 (次年度に向けて・改善策) ・副担任や他の学年の先生たちとの話し合いや連携を今後も大切にし、一人一人に寄り添った声掛けや援助をしていく。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で親が言ってもできないことを、先生が寄り添ってくださったおかげで、できるようになった。 ・外でたくさん遊ばせてくださるおかげで、小学生になってから、他の園からの子より活発になれたと感じられる。 ・エスパルスから学ぶことが大きいので、今後も有料になっても構わないので続けてほしい。
<p>④子どもの園での姿や育ちに関することを保護者に伝えたり、相談相手になったりして情報交換を図っていたか</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、副担任で共通理解を図り、登降園時、面談、電話などで子どもの園での様子や成長した姿、頑張っている姿など些細な事でも伝えるようにした。また子育て経験者として担任が伝えにくい事は伝え、悩みなどにも相談相手になれるよう心掛けた。 ・保護者によって情報交換の頻度に差や偏りが生じてしまう。保護者の中には相談ごとがあってもなかなか担任に声を掛けられない人もいた。また信頼関係が構築されていないとうまく伝わらないこともあった。 (次年度に向けて・改善策) ・保護者がどんな情報がほしいのか、何を知りたいのかの把握や知る為に、互いに発信しあえるような方法・手段があると便利なのかと思う。 ・職員や保護者にもいろいろな人がいるので、会話の感じ方や受け取り方が違ったり、こちらの話す意図を察するのが苦手な人もいたので伝え方には悩む。子どもを思う気持ちは同じなので、相談しやすい雰囲気づくりや関わり方を密にしていきたい。 	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園での活動が、目で見て分かるように「さくらだより」に1枚でもよいので、カラー写真を載せてほしい。 ・保育料が値上がりしても構わないので、メールではなくアプリにしてほしい。(メールだと開けないファイルがあって困ったことがあった。)

4、自己評価、総括・特記事項

- ・同じ目線で子ども達の思いを共感して保育を行うよう心掛けた。教師間で子ども達の日々の出来事を話すことができ、気づかなかった育ちを知ったり、驚いたり感動したりと充実できた。
- ・子ども達の為に「これも・あれも」とつい増えてしまい、結果時間に追われ他の学年へのフォローや園の課題に十分に向き合う時間が作れてない時があるように感じる。今本当に必要な活動なのかなど話し合い見極め、仕事の効率化を考える事で職員にも余裕が生まれ、子ども達に還元していけるのではないか。
- ・今年度も教育業界で様々な事故や事件があった。他人事とせず、自園や自分のことと置き換え、起こらないようにするにはどうすべきか考え、行動していきたい。また、保護者と園の求めるものの差異が増えているようにも思う。大人の都合ではなく子ども主体で良い環境を考え実践できるよう、保護者との交流の仕方、指導方針など話し合い園全体の意識を統一していくことも大切に思う。

5、学校関係者・評価委員からのコメント

- ・入学金を取る、保育料を値上げするなどしてでも、目で見える方が保護者の満足度が高いと考えられるので情報提供の部分をデジタル化して欲しいと強く願います。今の保育料で十分な保育をして頂いていますので、デジタル化する為の値上げでしたら、多くの保護者は、「保護者の負担ではない」と考えると思います。
- ・デジタル化をすることにより、幼稚園での子供の様子が少しでも垣間見れば、普段話をしない保護者も安心するのではないのでしょうか。先生方の負担が増えるとお考えのようでしたら、こういった仕事をできる人員を増やして欲しいと考えます。
- ・災害等の緊急時に、幼稚園から保護者への連絡が速やかに行われる環境であってほしいと思います。緊急時に現状の一斉メールのみでは、不安に感じますので、さくら幼稚園職員全ての方が、メールができるようにするもしくは、他の手段でも対策を考えていただければと思います。